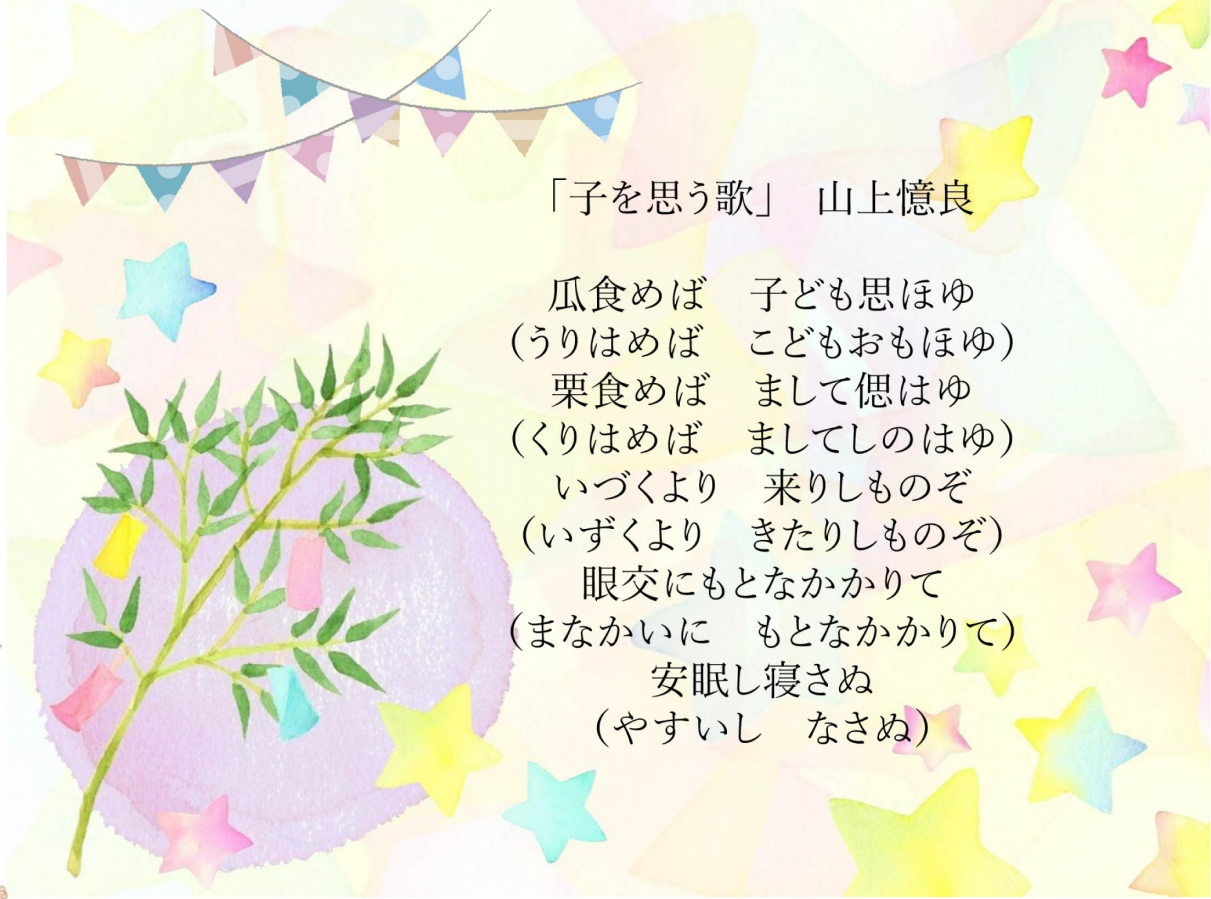


令和3年

7月

ソフィアだより



「子を思う歌」 山上憶良

瓜食めば 子ども思ほゆ  
(うりはめば こどもおもほゆ)  
栗食めば まして偲はゆ  
(くりはめば ましてしのはゆ)  
いづくより 来りしものぞ  
(いづくより きたりしものぞ)  
眼交にもとなかかりて  
(まなかいに もとなかかりて)  
安眠し寝さぬ  
(やすいし なさぬ)

なにをしても思うことは子どものこと。子どもは今何をしているのかなあ？子どものことがまぶたに焼きついて眠れない。上記の歌は、万葉の歌人山上憶良が、旅先から歌った歌です。思うことしかできない万葉時代。親の気持ちの深さが1000年前の一つの歌から伝わってきます。今は、どんな場所においてもWiFiがつながれば声も聞こえるし姿もみられます。

老人施設で、コロナ対策として直接の面会ではなくオンライン面会が叶う施設があります。オンラインで定期的に顔や声を聞いていた娘さんが、ある日、防護服を身にまとい面会に行き、手を握り合ったとき、「やっと会えたね。」と話している姿がニュースで流れていたことがあります。施設にいるお父さんの涙をみて、本物の手のぬくみ、目の前にいる本物の娘さんがいう言葉は、オンラインでは伝えきれない何倍もの力になってその人の感性を刺激したのだと感じました。

大事な言葉を発する口を覆い隠さないといけなくなり、子どもたちの心に、脳裏に丁寧な言葉、やさしいまなざしを本物の生身の人として愛をもち伝えなければと思います。

笹の葉がゆれる7月、子どもたち一人ひとりの1日が、幸せにつつまれますように。

たなばたに願いを託します。

ソフィア東生駒こども園  
園長 中畑直実

